

財務レポート 2019

—平成30事業年度—



弘前大学
HIROSAKI UNIVERSITY

財務レポート2019 目次

1. 財務のポイント	1
2. 財務指標	5
3. 平成30事業年度 財務諸表	6
○ 貸借対照表（資産・負債・純資産の状況）	
○ 損益計算書（費用・収益の状況）	
○ キャッシュ・フロー計算書	
○ 国立大学法人等業務実施コスト計算書	
4. 弘前大学基金のご紹介	9
5. 弘前大学の立地による地域への経済波及効果	9

弘前大学の基礎データ

（平成30年5月1日現在）

学部/学部学生数	大学院/大学院生数	教職員数（うち常勤）
5学部 / 5,930名	7研究科 / 修士 490名 博士 361名 専門職 31名	3,111名（1,952名） 教員1,421名（893名） 職員1,690名（1,059名）
弘前大学への留学生 200名/20国・地域	弘前大学からの留学生 66名/10国・地域	土地 1,144,419㎡
附属病院診療科数 34診療科	附属病院病床数 644床	（文京町地区、学園町地区、 本町地区、富野町地区 他）

さらに詳しい情報はホームページをご覧ください

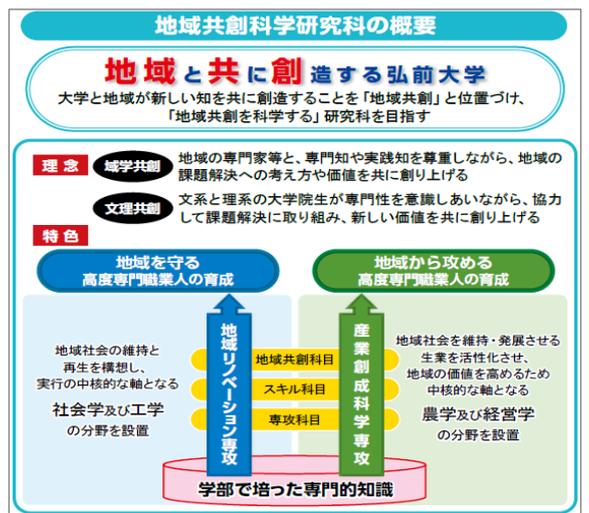
<https://www.hirosaki-u.ac.jp/information/koho/publication/summary.html>

教育研究組織の見直しについて～令和2年4月から～

本学の強み・特色を活かし社会の変化に対応できる教育研究組織づくりのため、医学部心理支援科学科の設置と大学院研究科の再編を行います。

学科新設となる医学部心理支援科学科は、公認心理師の養成を中心に、地域のリーダーとなる心理支援人材の育成を目的としています。

大学院研究科の再編は、地域共創科学研究科の新設と、従来の研究科の見直しを行います。地域共創科学研究科は、文理融合型の教育研究によって地域の発展に寄与する人材育成を目的としています。研究科の新設に伴い、人文社会科学研究科（修士課程）及び教育学研究科（専門職学位課程）は各1専攻に改組します。

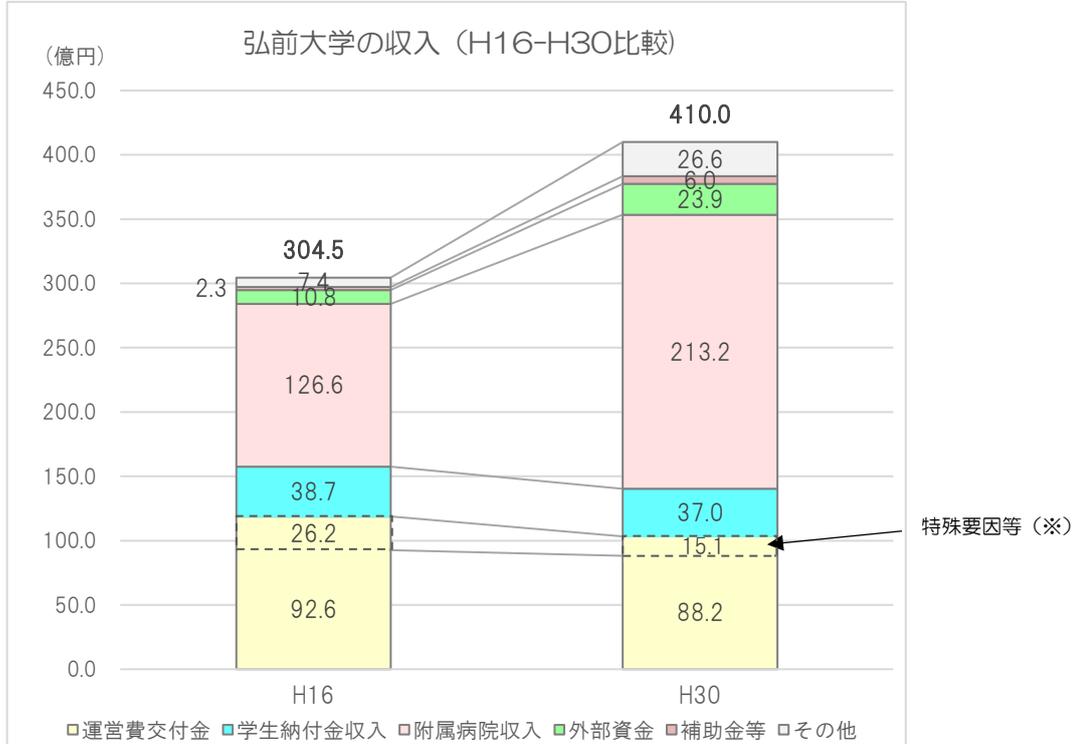


1. 財務のポイント

① 弘前大学の収入全体 『附属病院収入・外部資金は増加、運営費交付金は減少』

大学全体の収入額は、平成 30 年度は 410.0 億円となっており、国立大学が法人化された平成 16 年度と比較すると 105.5 億円増加しています。増加の大部分は附属病院の経営努力による附属病院収入の増収によるものです。

また、教育・研究等に充てることのできる附属病院収入以外の収入については、受託研究や寄附金等の外部資金の積極的な獲得により増加していますが、一方で運営費交付金等の国からの財政投入は減少となっています。



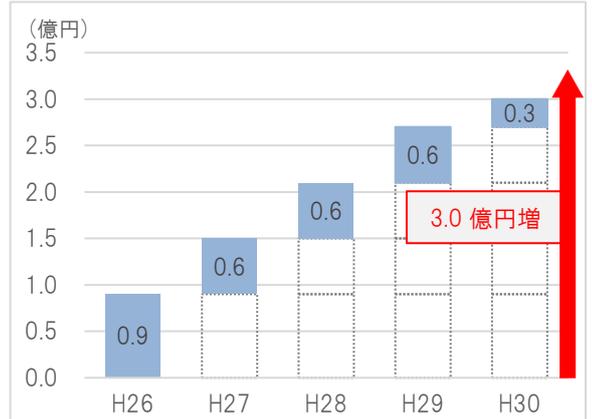
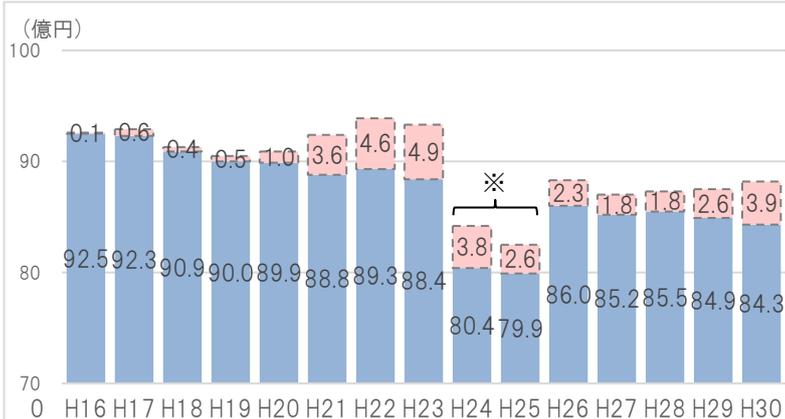
② 運営費交付金 『大学の裁量で使用できる運営費交付金は毎年減少』

運営費交付金の中には、退職手当や授業料免除分などの特殊要因等が含まれており、これを除いても法人化以降は減少傾向になっています。さらに、用途が特定されている機能強化経費が含まれており、それを除いた**大学の裁量で使用できる運営費交付金は毎年減少**しています。

また、最近では人事院勧告で給与の引上げが継続的に実施されています。本学では人事院勧告に準拠し、給与水準を決定していることから、**これによる影響額は、直近5年間で 3.0 億円**（附属病院分除く）に達しており、財政を圧迫している状況となっています。

特殊要因等を除いた運営費交付金の推移

人事院勧告に準じた給与改善の実施状況



■ : 用途が特定されていない運営費交付金
 ■ : 機能強化経費 (用途が特定されている経費)

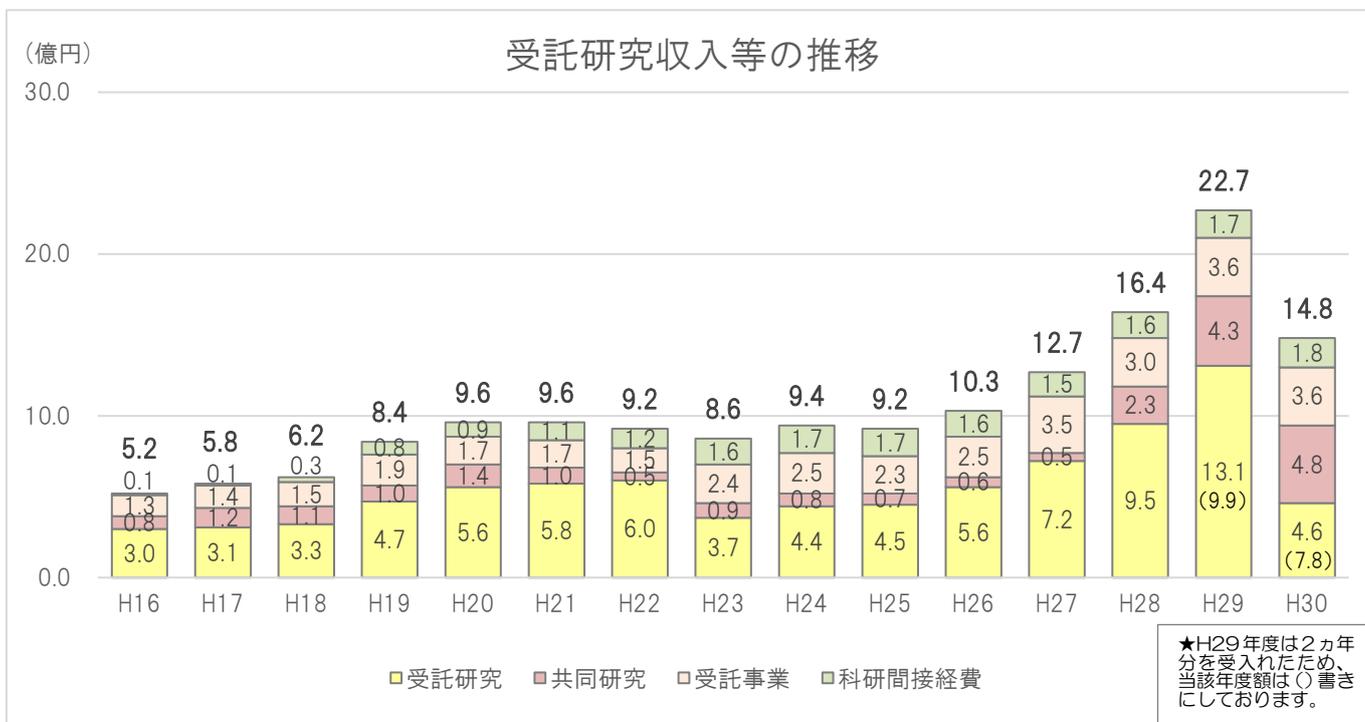
※H24、25年度の運営費交付金の減少は東日本大震災に伴う給与臨時特例法による減額措置によるものです。

③ 外部資金

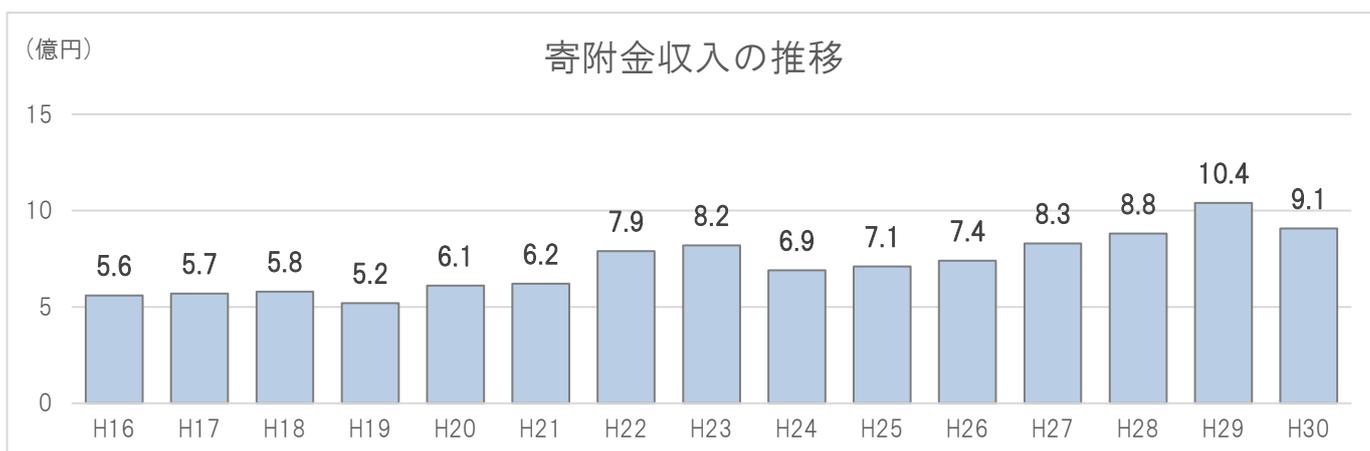
『外部資金の積極的な獲得を継続』

受託研究収入等は、全体的に継続して高い水準を維持していますが、平成 25 年度に採択された文部科学省の革新的イノベーション創出プログラム「COI STREAM」(※)において、平成 29 年度に大幅な追加交付や2カ年分の受入があったことで受入額が増加したのに対して、平成 30 年度では平年度化したことにより減少しています。

寄附金収入については、平成 27 年 7 月に「弘前大学基金」を創設し、企業訪問など積極的な寄附活動を行っています。年度により受入額にばらつきがありますが、法人化以降、増加傾向となっています。



※「COI STREAM」は平成 25 年度～平成 27 年度までは、金額の一部が補助金で交付されており、補助金分は上記に含んでいません。平成 28 年度以降は全額受託研究で交付されています。



④ 教育用設備

『設備更新に係る予算確保が課題』

設備整備に対する国からの予算措置が厳しい状況となっていることから、**設備更新に係る予算確保が課題**となっています。

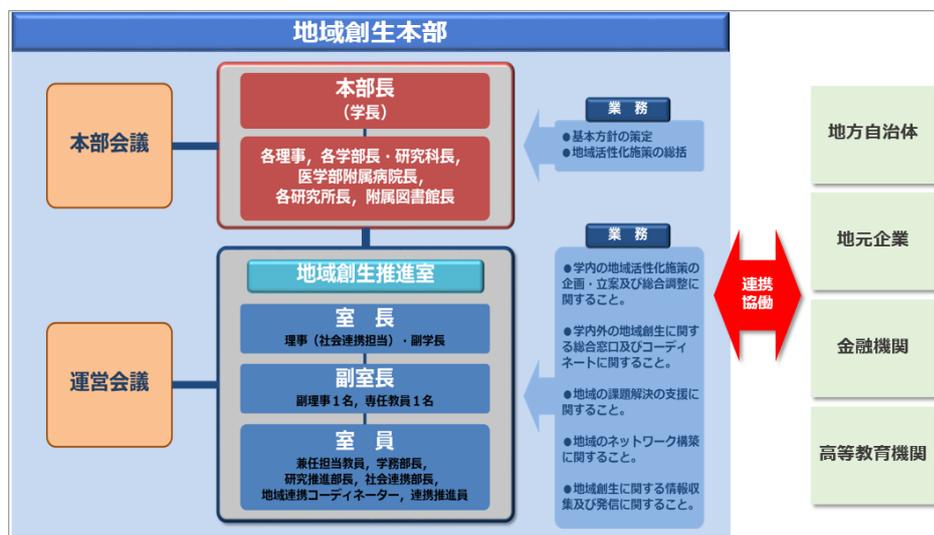
特に、理工系学部においては、学生の実験・実習で使用する設備、医学系学部においては、医学知識・技術の習得に使用する設備などが必要となりますが、財源の安定的確保が難しい状況となっています。

◆地域創生本部の設置

平成 30 年 10 月、地域活性化の中核的拠点としての弘前大学の役割をさらに強化することを目的に、学内関係組織との再編により、地域創生本部を新たに設置しました。学長を本部長に、また、すべての理事、学部長・研究科長を構成員としており、全学を挙げて地域連携を推進する体制になっています。

平成 30 年度は、自治体との包括連携協定を新たに 2 件締結し、合計 26 件となり、地域活性化の協働体制を構築しています。

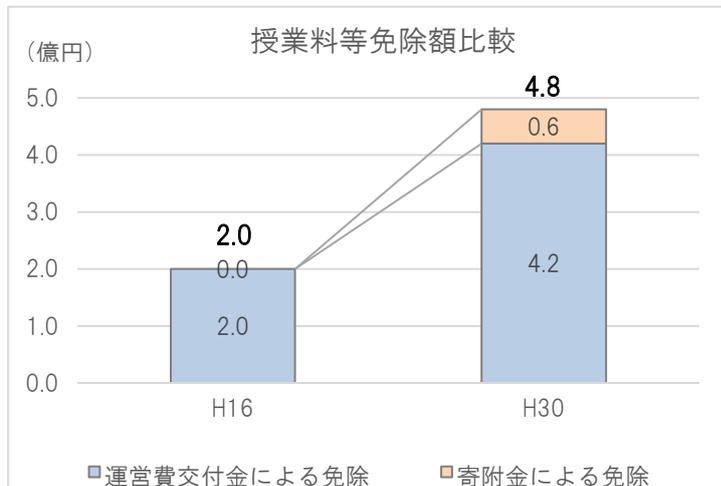
このほか、むつ市・青森中央学院大学と共同で設置した「むつサテライトキャンパス」や深浦町と共同で設置した「深浦エコサテライトキャンパス」において、恵まれた自然や魅力ある歴史・文化について、教員・学生が現地に滞在して地域と交流しながら学び、また地域課題へ対応し、地域社会の発展に取り組む滞在型学習や公開講座等の事業を推進しています。



◆授業料等免除

授業料等免除額は、国の方策として経済状況にかかわらず修学の機会が得られるよう授業料免除対象となる学生が拡大されてきています。（授業料等免除相当額については国から運営費交付金により措置）

また、本学においては、寄附金を使用した本学独自の授業料等免除も展開しています。



◎H30 授業料等免除額

4 億 7,700 万円

うち授業料免除 4 億 5,100 万円
 入学料免除 2,400 万円
 検定料免除 200 万円

◎H30 授業料等免除者延べ人数

1,195 人

うち授業料免除 1,077 人
 入学料免除 89 人
 検定料免除 29 人

主な本学独自の授業料等免除

(1) 弘前大学大学院振興基金

大学院学生等に対する就学支援を図り、大学院等の振興に資することを目的とした免除。
 平成 30 年度においては、1,530 万円（85 人）の授業料免除を行いました。

(2) 海外協定校からの留学生に対する授業料等の免除

海外協定校からの留学生に対し、本人の就学を支援するとともに本学と海外協定校との交流実績を高め、本学の国際化の推進に資することを目的とした免除。
 平成 30 年度においては、授業料 1,430 万円（39 人）、入学料 390 万円（14 人）の免除を行いました。

(3) 弘前大学ゆめ応援プロジェクト

弘前大学への入学を希望しているが、経済的理由により進学を諦めなければならない状況の学業優秀者に対して、入学前に入学料免除を確約し、優秀な学生の進学を応援することを目的とした免除。
 平成 30 年度においては、850 万円（30 人）の入学料免除を行いました。

2. 財務指標

財務指標は、教育研究コスト等の「見える化」を図ることを目的に、財政状況や運営状況について客観的に表示したものであり、大学の活動状況を多面的に理解する上で有効に活用されるものです。

傾向欄は、前年度と比較して変動率±2%以内の場合には、これを超えて向上している場合には、低下している場合にはを付しています。

平成30年度は、厳しい財政状況の中でも、自己収入の確保や経費削減等にも努め、全体としては昨年度から向上又は維持している項目が多数を占めました。

指標名	指標説明	計算式	同規模大学 平成30年度 平均値(※)	本学		
				平成29年度	平成30年度	傾向
流動比率	短期的な支払能力を示す指標 (高いほど良好)	流動資産÷流動負債	124.5%	128.5%	124.8%	
自己資本比率	総資産における自己資本の割合 を示す指標 (高いほど良好)	自己資本÷(負債+自己資本)	56.3%	58.8%	59.2%	
人件費比率	業務費における人件費の割合を 示す指標 (低いほど良好)	人件費÷業務費	50.4%	48.6%	48.2%	
一般管理費比率	業務費に占める一般管理費の割合 を示す指標 (低いほど良好)	一般管理費÷業務費	2.3%	2.4%	2.3%	
外部資金比率	経常収益に占める外部資金の割合 を示す指標 (高いほど良好)	(受託研究収益+共同研究収益 +受託事業等収益 +寄附金収益) ÷経常収益	5.6%	5.7%	5.4%	
業務費対研究経費比率	業務活動のうち、研究に使用される 経費の大きさを示す指標 (高いほど良好)	研究経費÷業務費	4.6%	3.9%	4.0%	
業務費対教育経費比率	業務活動のうち、教育に使用される 経費の大きさを示す指標 (高いほど良好)	教育経費÷業務費	4.4%	4.6%	4.5%	
学生当教育経費(千円)	学生一人当たりの教育経費を示す 指標 (高いほど良好)	教育経費÷学生数	241千円	243千円	250千円	
教員当研究経費(千円)	教員一人当たりの研究経費を示す 指標 (高いほど良好)	研究経費÷教員数	2,114千円	1,634千円	1,676千円	
経常利益比率	経常収益に対する経常利益の割合 を示す指標 (高いほど良好)	経常利益÷経常収益	1.6%	2.1%	2.8%	
診療経費比率	人件費を除く診療活動に要する 経費が病院収益に占める割合を 示す指標 (低いほど良好)	診療経費÷附属病院収益	66.1%	68.3%	68.3%	
病床当附属病院収益	病床一床当たりの病院収益を示す 指標 (高いほど良好)	病院収益÷病床数	33,375千円	32,429千円	33,320千円	
附属病院収入対長期借入金返済率	現金ベースの附属病院収入に対する 借入金返済額の割合を示す 指標 (低いほど良好)	(長期借入金返済+ 財務・経営センター納付金) ÷附属病院収入(全体)	5.9%	6.9%	6.2%	

※「同規模大学」とは文部科学省による財務分析上の分類で、医科系学部とその他の学部で構成し、学生収容定員が1万人未満、学部数が10学部未満の以下の25大学が該当します

(弘前大学、秋田大学、山形大学、群馬大学、富山大学、金沢大学、福井大学、山梨大学、信州大学、岐阜大学、三重大学、鳥取大学、島根大学、山口大学、徳島大学、香川大学、愛媛大学、高知大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学)

3. 平成30事業年度 財務諸表

I. 貸借対照表（資産・負債・純資産の状況）

【平成31年3月31日】

(百万円)			
資産の部	29年度	30年度	増減
I. 固定資産	61,439	60,981	△ 458
1. 有形固定資産	60,417	60,079	△ 338
土地	19,641	19,639	△ 2
建物	29,490	28,206	△ 1,284
構築物	1,681	1,580	△ 101
工具器具備品	5,196	6,093	897
図書	4,330	4,345	15
その他	79	216	137
2. 無形固定資産	61	53	△ 8
特許権	17	14	△ 3
ソフトウェア	39	31	△ 8
その他	5	9	4
3. 投資その他の資産	961	849	△ 112
投資有価証券	959	848	△ 111
その他	2	1	△ 1
II. 流動資産	12,747	12,867	120
現金及び預金	6,908	7,039	131
未収学生納付金収入	41	52	11
未収附属病院収入	4,225	4,365	140
有価証券	313	311	△ 2
たな卸資産	37	36	△ 1
医薬品及び診療材料	284	304	20
その他	939	760	△ 179
資産合計	74,187	73,848	△ 339

(百万円)			
負債の部	29年度	30年度	増減
I. 固定負債	20,642	19,853	△ 789
資産見返負債	11,157	10,660	△ 497
長期前受受託研究費等	210	236	26
長期借入金	8,042	6,809	△ 1,233
引当金	475	544	69
長期未払金	717	1,563	846
その他	41	42	1
II. 流動負債	9,921	10,314	393
運営費交付金債務	184	61	△ 123
寄附金債務	2,441	2,555	114
前受受託研究費等	849	752	△ 97
前受金	406	397	△ 9
借入金	1,316	1,232	△ 84
未払金	4,412	4,921	509
賞与引当金	120	132	12
その他	192	264	72
負債合計	30,563	30,167	△ 396
純資産の部	29年度	30年度	増減
I. 資本金	25,532	25,532	0
II. 資本剰余金	6,654	5,765	△ 889
III. 利益剰余金	11,438	12,384	946
純資産合計	43,624	43,682	58
負債・純資産合計	74,187	73,848	△ 339

(単位未満を四捨五入して表示しているため、合計額が合わない場合があります。)

主な増減内容

資産の部

建物・構築物

増： 総合研究棟（人文社会科学系）改修工事 H31.1竣工 118百万円
 （本町）電話交換機等更新工事 103百万円
 （本町）臨床講義棟新営工事 H31.3竣工 96百万円
 減： 減価償却負担等 1,963百万円の減少

工具器具備品

増： 病院情報管理システムのリース契約による取得 1,449百万円
 ハイブリッド手術室システム導入による増 917百万円
 医療機器の取得 289百万円
 研究設備の取得 193百万円
 減： 減価償却負担等 2,077百万円の減少

現金及び預金

増： 未払金、寄附金債務等の増 131百万円

負債の部

借入金（長期借入金+借入金）

減： 約定償還による 1,316百万円の減少

長期未払金

増： 病院管理情報システムの新規リース契約による増 1,087百万円の増加

寄附金債務

増： 寄附金残高の増 114百万円

純資産の部

資本剰余金

増： 資産の取得額（施設費・目的積立金） 240百万円の増加
 減： 損益外減価償却による減少 1,116百万円の減少

利益剰余金

増： 当期純利益 1,058百万円の増加
 減： 目的積立金取崩額 111百万円の減少

Ⅱ. 損益計算書（費用・収益の状況）

【平成30年4月1日～平成31年3月31日】

	(百万円)		
	29年度	30年度	増減
教育経費	1,666	1,701	35
研究経費	1,466	1,520	54
診療経費	14,271	14,659	388
教育研究支援経費	367	299	△ 68
受託研究・事業等経費	1,391	1,370	△ 21
人件費	18,117	18,189	72
一般管理費	893	870	△ 23
財務費用	117	92	△ 25
経常費用	38,288	38,700	412

	(百万円)		
	29年度	30年度	増減
運営費交付金収益	10,237	10,433	196
授業料・入学金等収益	4,030	4,007	△ 23
附属病院収益	20,884	21,458	574
外部資金収益	1,394	1,370	△ 24
施設費収益	8	32	24
補助金等収益	339	340	1
寄附金収益	824	788	△ 36
資産見返負債戻入	942	896	△ 46
その他収益	468	496	28
経常収益	39,124	39,820	696

(単位未満を四捨五入して表示しているため、合計額が合わない場合があります。)

《当期総損益》		(百万円)	
	29年度	30年度	増減
経常損益	837	1,119	282
臨時損益等	3	△ 62	△ 65
当期総利益	840	1,057	217
うち目的積立金	448	419	△ 29

当期総利益のうち、経営努力により生じた収支差である目的積立金は419百万円であり、残りは国立大学法人の会計処理上で発生する形式的・観念的な利益になります。目的積立金は、翌年度以降の教育研究等の質の向上及び組織運営の改善に充てることとしています。

主な増減内容

経常費用

診療経費

増：附属病院収益の増に伴う 388百万円の増加

人件費

増：退職手当の増 110百万円

附属病院医療職員等の増 65百万円の増加

H30人事院勧告に準拠した給与改定に伴う 60百万円の増加

学部改組・その他欠員補充等に伴う教員の増 48百万円の増加

減：看護師退職給付引当金の算定方法の平年度化による減少 210百万円

非常勤職員の見直しによる減 31百万円

特任教授等不補充による減 31百万円

臨時損益

臨時損失

増：固定資産除却損 97百万円の計上

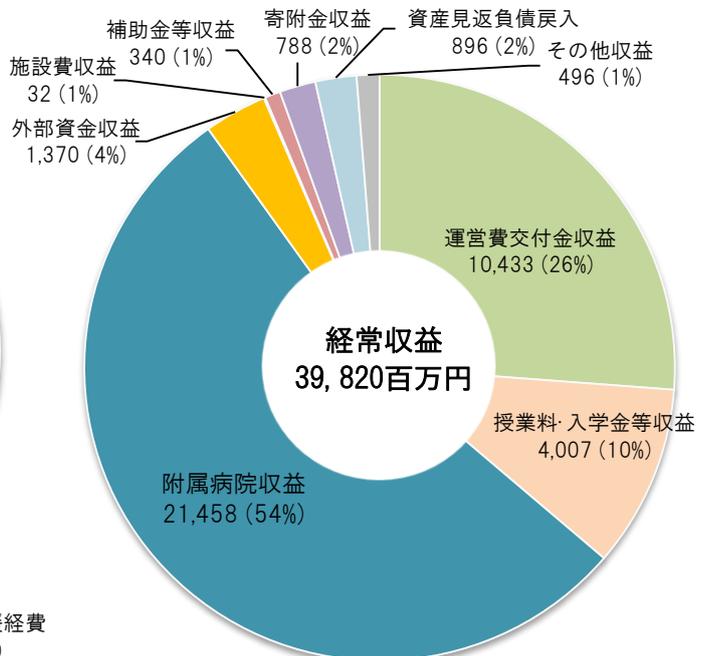
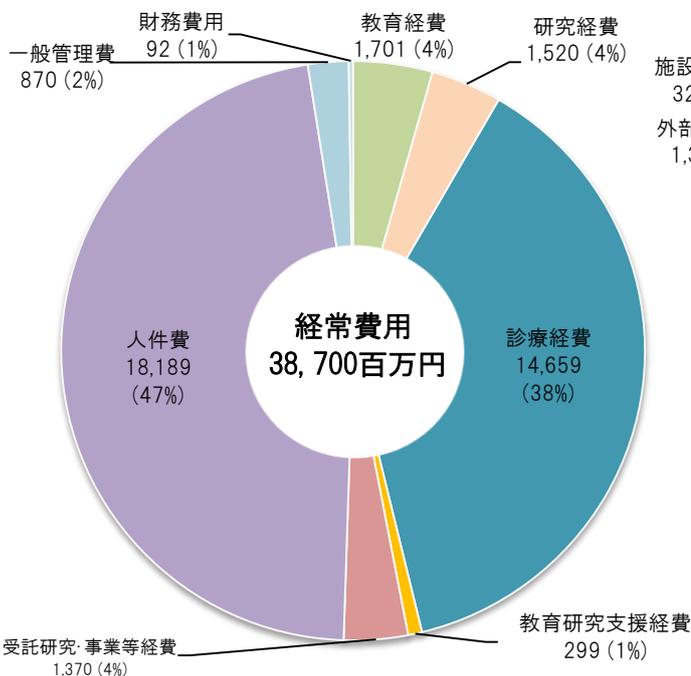
経常収益

運営費交付金収益

増：特殊要因運営費交付金（退職手当+117百万円、年俸制導入促進費+18百万円）の収益化額増加に伴う 135百万円の増加
法人運営活性化支援分の増 56百万円

附属病院収益

増：外来化学療法の数増による高額薬剤の使用増に伴う 282百万円の増加
高難度手術件数の増等による特定保険医療材料増加に伴う 140百万円の増加



Ⅲ. キャッシュ・フロー計算書

【平成30年4月1日～平成31年3月31日】

キャッシュ・フロー計算書は、一会計期間における資金（キャッシュ）の流れ（フロー）に焦点を当てて、業務活動・投資活動、財務活動の各々の目的別にどれだけ資金を投入したか（あるいは獲得したか）を表示するものです。

（百万円）

	説明	29年度	30年度	増減
I 業務活動による キャッシュ・フロー	通常の業務活動（投資・財務活動以外）の取引に係る 収入と支出の差額	4,705	3,290	△ 1,415
II 投資活動による キャッシュ・フロー	資産の取得及び売却等の取引に係る収入と支出の差額	△ 1,765	△ 1,281	484
III 財務活動による キャッシュ・フロー	資金の調達及び返済の取引に係る収入と支出の差額	△ 1,920	△ 1,878	42
IV 資金増加額	当期中の現預金（拘束性のない手元現金・当座預金・普通預金） 増減額	1,020	131	△ 889
V 資金期首残高	前期末現預金残高	5,888	6,908	1,020
VI 資金期末残高	当期末現預金残高	6,908	7,039	131

（単位未満を四捨五入して表示しているため、合計額が合わない場合があります。）

Ⅳ. 国立大学法人等業務実施コスト計算書【平成30年4月1日～平成31年3月31日】

業務実施コスト計算書は、国立大学法人の業務運営に関して、納税者である国民の皆さまが負担したコストを表しており、国立大学法人独自の計算書です。

（百万円）

	29年度	30年度	増減
業務費用	10,581	10,571	△ 10
(1) 損益計算上の費用	38,361	38,825	464
(2) (控除) 自己収入等	△ 27,780	△ 28,254	△ 474
損益外減価償却相当額 等	1,225	1,128	△ 97
引当外賞与・退職給付増加見積額	255	△ 656	△ 911
機会費用	14	1	△ 13
国立大学法人等業務実施コスト	12,077	11,043	△ 1,034

（単位未満を四捨五入して表示しているため、合計額が合わない場合があります。）

4. 弘前大学基金のご紹介

弘前大学基金

弘前大学基金は、大学の財政基盤の充実強化を図り、学生支援、教育研究活動等の一層の充実を図ることを目的に平成27年7月に創設しました。

本学では、本基金を有効に活用し、地域を志向した大学改革を進め、地域活性化の中核的拠点としての本学の姿を確固たるものとし、イノベーション創出と人材育成を通じて本学の活動成果を地域社会へ還元をすることを目指しています。

基金の主な事業・目的

1. 学生への支援事業
2. 教育研究活動への支援事業
3. 国際交流活動への支援事業
4. 社会貢献活動への支援事業
5. その他大学全体に対する支援事業
6. 特定基金「弘前大学修学支援基金」

基金による主な事業

学術講演会の開催

学術的に著名な識者を本学に招き、学術講演会を開催しました。これにより学内教職員の研鑽意識を高めるとともに、学生及び一般市民にレベルの高い学習機会を提供することができました。

名古屋大学教授
ノーベル物理学賞受賞者
天野 浩 氏
「世界を照らすLED」
H30.10.18



留学派遣学生への奨学支援

交換留学生として協定校に派遣した学生22名に対し、留学費用を助成しました。渡航前に助成することで学生の負担をより軽減することができました。



Book Hunting

古本募金で集まった寄附金を用い、学生が自ら書店に向き図書館に置いてほしい本を選ぶ「Book Hunting」を実施し、189冊の新たな本が図書館に蔵書されました。

トヨペット未来の青森県応援事業

弘前大学基金「トヨペット未来の青森県応援事業（奨学金）」を実施しました。青森県出身で青森県内に就職を希望し、成績優秀かつ経済的な支援を要する4名の学生に対し、給付型の奨学金を給付しました。

弘前大学基金の寄附方法や税額控除等についてWEBページから確認いただけます。

また、WEBページから寄附の申込み手続きができます。詳しくは <https://fund.hirosaki-u.ac.jp/>

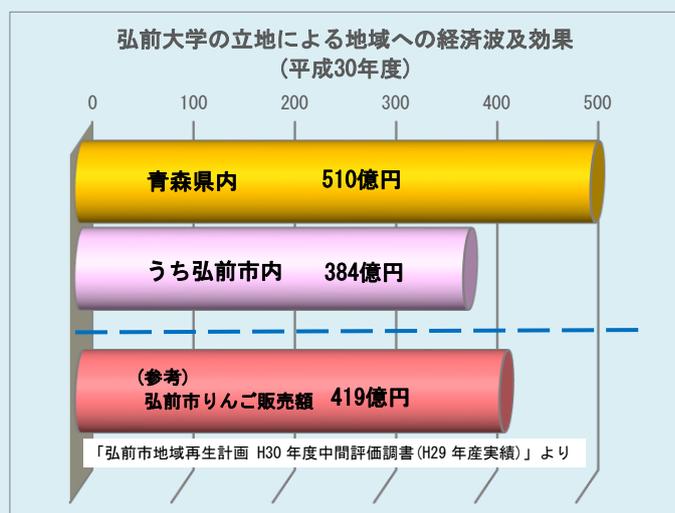


5. 弘前大学の立地による地域への経済波及効果

平成30年度推計

平成30年度は、弘前大学の立地により、青森県内において510億円、うち弘前市内において384億円の経済波及効果が生じた試算結果となっています。

※ 経済波及効果は、「教育・研究・診療活動（大学の物品購入等）」、「教職員・学生の消費活動」、「その他の消費活動（受験生来訪時の消費等）」、「施設整備活動」の4つの視点から試算しています。（平成21・22年度の本学の経済波及効果を試算した「(財)青森地域社会研究所」の算定方法を参考に本学が独自に算出したものです。）



弘前大学 財務レポート2019

発行・編集：国立大学法人弘前大学財務部

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地

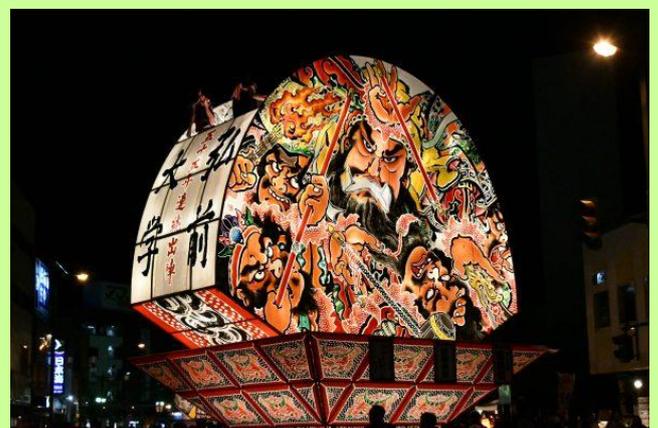
URL：<http://www.hirosaki-u.ac.jp/>

お問い合わせ：財務部財務企画課総務グループ（決算担当）

TEL：0172-39-3042 FAX：0172-32-9490

E-mail：jm3042@hirosaki-u.ac.jp

令和2年2月発行



財務諸表・財務レポート 掲載URL

<https://www.hirosaki-u.ac.jp/information/published/corporation/zaimu.html>



弘前大学
HIROSAKI UNIVERSITY